



▲2011年東京優駿 (G1)

世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.9 —

▼2012年凱旋門賞 (G1)



夢を掴みかけた男

オルフェーヴル

2011年のクラシック競走で史上7頭目の三冠馬となり、生涯でG1・6勝をあげたオルフェーヴル。新馬戦や菊花賞の入線後に騎手を振り落したり、2012年の阪神大賞典では逸走してしまったりと、気性の難しさは広く知られていたが、その現役生活を振り返ると、大敗を喫したのは京王杯2歳Sの10着と、天皇賞(春)の11着の、わずか2回のみ。その他の19戦は3着以内(うち12勝)という素晴らしい成績を残している。群を抜く能力が、その“やんちゃぶり”を凌駕したとでも言うべきか。彼のポテンシャルの高さは国内だけに限定されるものではなく、二度にわたって遠征したフランスでも遺憾なく発揮された。

最初の遠征は2012年。天皇賞(春)の大敗から立て直し、宝塚記念の快勝で復権を飾ったのち、8月末に同厩舎のアヴェンティーノとともに渡仏。ステップレースとして臨んだフォワ賞(仏G2、4歳以上牡・牝、芝2400m)は5頭立ての少頭数となったが、アヴェンティーノが先行するスローの展開のなかで我慢に我慢を重ねて直線へ向くと、インコースを突いて力強く抜け出し、見事に海外初勝利をあげた。

これで評価を上げた日本が誇る三冠馬は、大目標である凱旋門賞(仏

G1、3歳以上牡・牝、芝2400m)で、欧州の有力馬の相次ぐ出走回避もあって1番人気に推された。大外枠からスタートしたオルフェーヴルは後方を進むと、4コーナー手前から外を通過して進出を開始。直線へ向くと目の覚めるような末脚を繰り出し、残り300m付近で一気に先頭へ躍り出る。しかし、「ついに日本競馬の悲願達成か」と思われた次の瞬間、悪癖を出して内へと大きく斜行し、ラチに接触。その間隙を突いて、後続からしぶとく脚を伸ばしたフランスのソレミアにゴール寸前でクビ差交わされ、快挙を逸した。「勝ったも同然」と言われるレース内容ではあったが、それだけに惜しまれて余りある敗戦だった。

2013年にも同様の遠征を敢行したオルフェーヴルは、フォワ賞を連覇。凱旋門賞ではまたも1番人気に推されたが、3歳のフランスの女傑トレヴの強靱な末脚の前に屈し、2年連続の2着に終わった。

帰国後、有馬記念を8馬身差で圧勝して自らの花道を勝利で飾り、昨年から種牡馬入りしたオルフェーヴル。自身の、そして日本競馬の悲願である凱旋門賞制覇の夢は、2017年にデビュー予定の子供たちに託された。

全成績		中央17戦10勝 海外4戦2勝				
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
2010. 8. 14	新潟	メイクデビュー新潟	1600	1	1:37.4	池添 謙一
10. 3	中山	芙蓉S	1600	2	1:35.3	池添 謙一
11. 13	東京	京王杯2歳S (GII)	1400	10	1:22.6	池添 謙一
2011. 1. 9	京都	日刊スポーツ賞シンザン記念 (GIII)	1600	2	1:34.2	池添 謙一
2. 6	京都	きさらぎ賞 (GIII)	1800	3	1:47.8	池添 謙一
3. 26	阪神	スプリングS (GII)	1800	1	1:46.4	池添 謙一
4. 24	東京	皇月賞 (GI)	2000	1	2:00.6	池添 謙一
5. 29	東京	東京優駿 (GI)	2400	1	2:30.5	池添 謙一
9. 25	阪神	神戸新聞杯 (GII)	2400	1	2:28.3	池添 謙一
10. 23	京都	菊花賞 (GI)	3000	1	3:02.8	池添 謙一
12. 25	中山	有馬記念 (GI)	2500	1	2:36.0	池添 謙一
2012. 3. 18	阪神	阪神大賞典 (GII)	3000	2	3:11.9	池添 謙一
4. 29	京都	天皇賞(春) (GI)	3200	11	3:15.6	池添 謙一
6. 24	阪神	宝塚記念 (GI)	2200	1	2:10.9	池添 謙一
9. 16	仏	フォワ賞 (G2)	2400	1	2:34.2	C.スミヨン
10. 7	仏	凱旋門賞 (G1)	2400	2	—	C.スミヨン
11. 25	東京	ジャパンカップ (GI)	2400	2	2:23.1	池添 謙一
2013. 3. 31	阪神	産経大阪杯 (GII)	2000	1	1:59.0	池添 謙一
9. 15	仏	フォワ賞 (G2)	2400	1	2:41.4	C.スミヨン
10. 6	仏	凱旋門賞 (G1)	2400	2	—	C.スミヨン
12. 22	中山	有馬記念 (GI)	2500	1	2:32.3	池添 謙一

※レース名は当時の表記による

オルフェーヴル 牡 栗毛 2008年5月14日生
調教師：池江泰寿 馬主：(有)サンデーレーシング

父 ステイゴールド 1994 黒鹿	サンデーサイレンス	Halo
	ゴールデンサッシュ	Wishing Well
母 オリエンタルアート 1997 栗	メジロマックイーン	デイクタス
		ダイナサツシユ
	エレクトロアート	メジロテイターン
		メジロオーロラ
		ノーザンテースト
		グランマステイヴンス